

令和元年度第1回千葉県国民健康保険運営協議会議事概要

1 日時 令和元年9月4日(水)午後2時30分～午後3時45分

2 場所 千葉県教育会館本館 604会議室

3 出席委員

(委員総数14名中11名出席)

岡田委員、鎌形委員、仲村委員、石井委員、久保木委員、永島委員、
福山委員、小賀野委員、長根委員、岡本委員、須田委員

4 会議次第

1 開会

2 保険指導課長あいさつ

3 議題

(1) 平成30年度国保特別会計(県・市町村)の決算状況について

(2) 令和元年度市町村保険料率の設定状況について

(3) 令和2年度納付金・標準保険料率の算定方法について

(4) 平成30年度運営方針に基づく取組結果(市町村分)

4 報告事項

(1) 令和2年度保険者努力支援制度について(都道府県分)

(2) 国保ヘルスアップ支援事業について

5 その他

6 閉会

5 議事

(1) 平成30年度国保特別会計（県・市町村）の決算状況について

○ 事務局説明

事務局より資料1-1から資料1-7をもとに説明

○ 意見・質疑応答

(委員)

法定外一般会計繰入の市町村別状況として、前年に比べ、金額・実施自治体数は減っているのは、国保広域化による成果と考えてよろしいか。

(事務局)

法定外繰入については、保険給付と保険料負担との関係性が不明瞭になることや、国保の被保険者以外の方からも負担いただく状況となることから、縮小していく必要があるとの認識である。各市町村に努力いただく点ではあるが、今回の制度改革がきっかけとなって一層その取組が進んだものと考えている。

(委員)

特に、注目すべき数字はあるか。

(事務局)

国保広域化後の市町村の決算状況については、収支差が205億円余りの黒字となっている。また、初めての県の国保の決算状況においても、収支差が91億円の黒字であり、国保返還金を除いても21億円余りの黒字となり、適正に運営が行えていると考えている。

(2) 令和元年度市町村保険料率の設定状況について

○ 事務局説明

事務局より資料2-1及び資料2-2をもとに説明

○ 意見・質疑応答

(委員)

注目すべきポイントはありますか。

(事務局)

各市町村の料率設定について、県が参考として標準保険料率を示したが、ほとんどの市町村においては変更がなかった状況である。

(委員)

収納率と保険料率は連動するのか。また、来年度の保険料率に反映されることもあるか。

(事務局)

全く関係がないことはないが、市町村では、それぞれの状況等を踏まえ、保険料率を設定していると思われる。

(3) 令和2年度納付金・標準保険料率の算定方法について

○ 事務局説明

事務局より資料3及び参考1をもとに説明

○ 意見・質疑応答

(委員)

特に、強調したい点はあるか。

(事務局)

今年、初回の決算を終え、順調な滑り出しが図られたところでもあり、市町村事務の混乱に繋がることは避けていきたいと考えている。丁寧に、ひとつずつ協議させていただきながら、あまり大きな変更がないような形で、しばらくは取り組んでいきたい。

(4) 平成30年度運営方針に基づく取組結果（市町村分）

○ 事務局説明

事務局より資料4をもとに説明

○ 意見・質疑応答

(委員)

項目「4 保険給付の適正な実施」の「課題と今後の取組」において、「定期保険者指導の際に、一部市町村において、はり灸・あん摩・マッサージ等の支給申請書の二次点検を実施していないことが見受けられたため、点検を実施するよう県として求めていく」とのことだが、適正な保険給付が行われるためには極めて重要である。適正な保険給付が行われるよう、取組や仕組みについて検討いただきたい。

(事務局)

まずは、実施していない市町村もあることから、二次点検の実施について、取組を促し、適正な保険給付に向けて働きかけていきたい。

(委員)

取組状況の記載の方法として、前年度と比べて成果が上がったものなど別途示していただく、議論もしやすい。

(事務局)

まずは、初回の取組を報告させていただいた。今後は、取組の推移が見えるような資料としていきたい。

6 報告事項

(1) 令和2年度保険者努力支援制度について（都道府県分）

○ 事務局説明

事務局より資料5-1及び5-2をもとに説明

○ 意見・質疑応答

<質疑なし>

(2) 国保ヘルスアップ支援事業について

○ 事務局説明（後藤室長）

事務局より資料6及び参考2をもとに説明

○ 意見・質疑応答

<質疑なし>

7 その他

<議題なし>

8 閉会

午後 3 時 4 5 分閉会